



Interview くまがえ まもる 熊谷 守さん 「伝統と町の繁栄を親子二代で挑む」

娘 たちの若い感性にはいつも驚かされています。私が作った釉薬で恐竜の器やアクセサリ類など今までになかった作品たちにいつも刺激をもらっています。現在、上野焼の後継者不足が深刻な状況の中で娘2人が陶芸家として活躍している姿は、父そし

て陶芸家としても誇らしく思っています。これからも彼女たちの挑戦をそつと見守り、上野焼そして福智町の繁栄のため親子二代で切磋琢磨しながら頑張っていきたいです。ぜひ、私たちの作品を通じて、陶器に込めた思いや上野焼の魅力を手に取り感じてください。

Interview くまがえ ひかる 熊谷 光さん 「後継者として先陣を切り挑戦」

高 校三年生の頃から手伝いで器の販売などを行っていました。その後、青森で就職をして28歳のとき、上野焼の後継者として陶器の魅力を広めたいと思い、故郷で本格的に陶芸を始めることを決意。私は、陶片を使ったアクセサリや器などを作っていま

す。守窯の店舗には父や私たちの作品があり、幅広い世代のかたがたに楽しんでいただけるのが特徴でありコンセプト。上野焼は福智町の誇りであり魅力の一つです。これからも上野焼を守り、みなさんが身近に感じてもらえるような作品を作っていきたいです。



1 作業場では、父の背中を前に娘2人が真剣に作陶。**2** 作品についての意見交換やときには雑談もあり笑顔がふれる作業場。**3** 「焼き方や温度調整によって釉薬が出す色は変わるのとても面白い」と語りながら灯油窯の温度を随時確認する守さん。



まず手に取ってもらうことが大事」と揺るぎない情熱をにじませます。恐竜や生き物をモチーフにしたデザインが話題となり、今では町内外から多くのかたがその陶器を求めて足を運んでいます。
今、若き陶芸家の「挑戦」によって420年以上の歴史ある上野焼に新たな価値と未来への希望が生まれるようとしています。



くまがえ まはる 熊谷 真春さん

福岡造形短期大学・九州産業大学卒業後、22歳の時に父である守さんのもとで本格的に陶芸を開始。

→生き物たちのリアルな質感を絵付けで表現する真春さん。



新たな風と価値を

吹き込む――。

親子二代で守り築く今までにない上野焼
現状維持では乗り越えられない課題に立ち向かう
活路を見いだすため日々、挑戦を行う守窯に迫ります。



誇りある伝統文化に



↑東京ドームシティ プリズムホールで行われるテーブルウェア・フェスティバル2025に出品するコップや器に真剣な眼差しで絵付けする守さん。

上野焼×JALのコラボ商品が誕生 Column



↑②から吉田瑞穂さん、高鶴享一さん、酒井俊雄さん、熊谷守さん。

地 元の魅力を発信するJALの客室乗務員「JAL ふるさとアンバサダー」の吉田瑞穂さんが秋の窯開きに向けて上野焼の器をデザインしました。コラボ商品はJALの象徴である鶴をイメージしたデザインが大好評で窯開きの3日間で完売。3月に行われるスイーツ大茶会でも第二弾のJALと上野焼のコラボ商品を販売する予定です。



↑②から庚申窯、守窯、昇龍窯。

千利休のもとで侘び茶の奥義を極め茶人として名高い豊前小倉細川藩の初代藩主・細川忠興と文禄・慶長役で招致された李朝陶工・尊楷、この二人の出会いで始まった国指定伝統的工芸品の「上野焼」。毎年、春と秋に行われる陶器まつりでは町内外からたくさんさんの陶芸ファンが訪れにぎわいを見せます。しかし、現状は生活様式の変化による需要の減少や後継者不足、売り上げも平成17年のピーク時から5割減少し、町が誇る上野焼の未来に暗雲が漂っています。その中でも上野焼の活路を見出すため、親子二代で新たな風を吹き込み挑み続けている守窯。「私の作品で小さな子どもから大人まで上野焼を身近に感じて楽しんでもらえたら」と普及の意欲を語る次女の熊谷真春さんは、上野焼の伝統的な釉薬の特徴を生かした恐竜の植木鉢やカエルのメガネ置きなどこれまではなかった作品づくりに挑戦しています。

暗雲漂う未来に指す新たな光